

防災対策本部から

防火管理者 土屋 直道

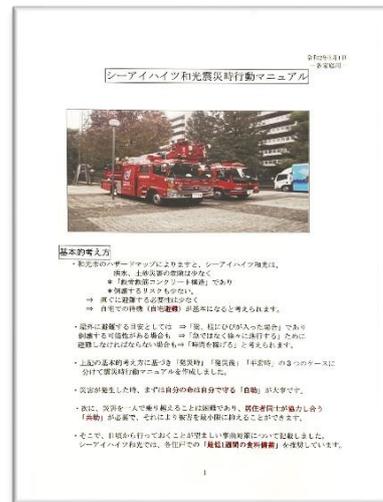
平素よりシーアイハイツ和光の防火・防災について、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、今年は9月1日に関東大震災が起きてからちょうど100年となり、テレビや新聞等で大きく取り上げられましたので、防災対策に関心を持たれた方も多かったのではないのでしょうか。実際、本年1月以降に限っても、日本国内で震度5弱以上の強い地震が9回発生しており、関東地方でも、千葉、茨城、神津島等が震源地と報じられています。

また、地震調査委員会は、「今後30年以内にマグニチュード7級の首都直下型地震が起きる確率は70%程度」と予測しています。地震の発生自体は止めようがありませんが、発生後に起こる様々な2次災害は、日頃からの備えによって減らすことができるのです。どうかこの機会に、災害時の対応を考え、見直していただくことをお願いします。

1. 防災マニュアル説明会の開催について

令和2年5月に各戸に配布しました「シーアイハイツ和光震災時行動マニュアル（各家庭版）」の説明会を昨年秋に開催したところ、多数の皆様の参加があり、今年も実施要望が強かったので、10月1日（日）午前・午後、5日（木）夜間の3回開催いたしました。初回午前部の希望者が多く、急遽集会棟の2階に加えて1階の多目的ルームでも同時開催することにしました。参加された皆様にお礼を申し上げますとともに、次の機会には、より一層充実した内容となるよう、努めていきたいと思っております。



2. 消防・防災訓練 10月15日午前予定

前年から始まりました「地震訓練」、9時45分に「地震発生」を放送しますので、身の安全を図る行動を取ってください。その後玄関ドアに「避難確認カード」の掲示をお願いします。訓練に参加されないご家庭も、カードの掲示をしてください。

想定地震の発生後、各棟の自衛消防班員は、1階ロビーに集合して、棟の災害本部を表示し、班員は役割分担に応じて、「避難確認カードのチェック」、「エレベーター使用禁止」など所定の行動をしてください。今回は、地震訓練のプログラムに、この自衛消防班の活動を新たに追加しました。

10 時の放送で避難はしごを操作し、はしごを降ろす訓練をします。ただし、第3街区（H I J K棟）において、大規模修繕工事が始まり、足場が組まれている部屋は、避難はしご訓練は実施しません。10時30分の警報ベルを確認後、居住者は避難を開始します。各棟の1次避難場所に集合し、点呼を受けた後に自衛消防班員とともに避難場所の、鐘のなる広場に移動します。集合の後、防災本部員、各棟消防班員とともに、それぞれ割り振られた訓練に参加していただきます。ただし、今回、防火扉、防火シャッターの対処訓練を割り当てられたB C K棟の参加者は、鐘のなる広場ではなく、直接訓練場所に移動してください。

なお、詳しい内容につきましては、各戸に配布した「消防・防災訓練のお知らせ」をご参照ください。

1年に一度の訓練です。いざという時に慌てずに行動できるための訓練となります。

災害時には、地域や身近にいる人同士の助け合い（共助）が大切です。

ぜひ、多くの皆様が参加して下さるよう、お願いします。

3. マンションにおける在宅避難のポイント

大地震が起きて、ライフラインがストップした時のことを想像してください。停電、断水、ガスのストップとなれば、排水の禁止、エレベーターの停止、ごみ置き場の閉鎖等々生活に様々な難題が降りかかってきます。

このような事態にあらかじめ準備するには、「シーアイハイツ和光震災時行動マニュアル（家庭版）」と和光市発行の「防災ガイド&ハザードマップ」（2023年3月発行）を参照するのがおすすめです。

食料品をはじめとして、様々な備蓄品リストが掲載されています。食料品のページにはローリングストックのやりかたが丁寧に説明してあります。災害用に特別な食料を購入するのではなく、日常の食料品を多めに購入して順番に消費するというやり方です。

飲料水は1日一人当たり3リットルが必要

とされています。ライフラインの復旧が遅れた場合、例えば給水車が来るようになったとしても、エレベーター無しで高層階まで水を運ぶのはとてもたいへんです。水は多めに備えましょう。



備品の中で忘れてはいけないのが、携帯電話用の充電器です。自家用車をお持ちの方はクルマ用の充電器も役立つと思います。

また、ライフラインが止まった場合、トイレに困らないように備えなければなりません。市販の簡易トイレもいろいろありますが、前出の「ハザードマップ」には、ポリ袋と新聞紙を使う方法が掲載されています。

ゴミの回収がストップした場合、とりあえずは自宅保管しなければなりません。簡易トイレや生ゴミを保管する場合には消臭剤が役立つと思われます。

最後におすすめしたいのが、NHK テレビ日曜日午前中の番組「明日をまもるナビ」です。ともすれば薄れがちな防災意識を維持していくのに好適な番組です。

スポーツの試合では、練習した以上のことはできない、とよく言われています。防災も同じです。いざ、本番となった時には、日頃から備えて、訓練したことだけが有効になると思います。この機会に皆様の災害対策を見直していただくことをお願いします。